



まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

はてな? サロン

話し合いませんか ● なぜ どうして そんな?



大北ひさかつ議員 12月議会報告同時開催

2020年1月18日男衾コミセンにて

「はてなサロン」は「どうして?なぜ?」の素朴な疑問から始まる何でも話せるしゃべり場として新しく開設しました。今後も大北議員の議会報告とセットで開催します。会場では、たくさんの意見や思いが出され大盛況となりました。また、町の議会だよりだけでは見えないことも、なるほど、そういうことだったのかと納得した事がいろいろありました。

12月議会報告の冒頭は、請願「町道4845線わき水路氾濫防止のための整備について」が全会一致で採択された経過と結果報告でした。(次ページ大島さんの寄稿をお読みください) 請願・陳情・要望書などの違いとメリットデメリットなどが話されました。

12月議会報告の詳細は、大北議員の議会リポートが発行されますので、ぜひお読みください。この紙面では、はてなサロンで話題となったことをメインに掲載します。



●広報にも掲載され回覧版でもお知らせされた「公共施設等総合管理計画」アクションプラン説明会。しかしよくよく読んでみてもわかりづらい。具体的な内容は、総合政務課の出している資料として、町の公式HPからダウンロード出来る、その旨も広報に書かれている。こちらは具体的で一つ一つの施設の評価や統廃合などについての詳細が記載されているが、ダウンロードして初めて分かるようになっている。しかし、そういった方法が使えない人たちも多にいる。もっと回覧でもわかりやすい表記が必要なのではと思う。

議会傍聴



政治は身近なところから始まる

「町道及び水路の氾濫が議会で審議されることになりました」

寄居町鷹巣は9つの地域からなっています。私の住む上中西第2地区は、たぶん高度成長期に分譲された築昭和59年の15軒の地域です。

関越を背に狭い道路と並行して流れる排水、その両側に立ち並ぶ住宅、そしてその先に小規模の田んぼと畑の広がる閑なところ。私はここに住んで18年になります。住んでみてわかったことは、この地域は大雨が間断なく降り続けると家の前の道路と排水は一緒となって川となり広がる田んぼや畑を一面の水で覆ってしまうという事です。住宅は孤立状態となり、身動きが取れなくなります。住民にとっての積年の悩みです。狭くなっている排水の下流が深谷市であることが問題を困難にしているようです。

まずは声に出そう

それがこの度、歴代の区長および議員の方々のお骨折りで請願という形で議会に出され、審議されることになりました。私は12月議会の最終日12月20日に傍聴をすることができました。全員一致の賛成で請願は可決されました。最終日は、常任委員会に付託された議案が議決される日で、今回の請願についての審議は代表質問議員と委員長との質疑応答でほんの少しだけ垣間見ることができました。請願は可決されたものの、深谷市との審議はされていない様子で継続審議もないようでした。この点は懸念されます。

こうした流れの中で、今まで自分から遠かった寄居町議会を身近に感じます。生活するうえで困っていることは、まず口に出して言うこと。そして近隣に住む地域の人々と問題を共有して話し合うことが解決の糸口だという事を実感しています。そしてそれを受け止め吸い上げていただき、請願という形に実現していただいた方々の努力に感謝しています。政治は身近なところから始まるんですね。

大島恵美子

●「寄居若者会議」寄居をもっと盛り上げたい、寄居のために何かやりたい、と様々なイベント等を行っている。寄居町公式HPに過去3年間の活動報告が載っている。もっと若者たちの活動をアピールすることが必要。

●「寄居町 100人カイギ」全国でアクションされている「100人カイギ」が寄居にもある。毎回5人のゲストに登壇してもらって、その人に働き方について10分スピーチしてもらう。ゲストが100人に達したら解散するという、“ゆるいつながりを生む”ことを目指したプロジェクト。寄居町でも多くの若者が参加して活気あるカイギとなっているが、イベントとして終わらせたくない。

●これからの寄居町のまちづくりとして、寄居の有機農法を含む農業にもう一つの要素をプラスして、町の魅力にしたい。例えばプラス福祉・医療やプラス子育て・教育などまだまだ仕掛けられる。

●前回のサロンで話されたことだが、町営のタクシー、バスなどの住民の移動手段の充実を求めたい。通院、通学、遊び、学び、そして買い物など。高齢者、生活弱者はたとえ将来、自動運転車が普及した時でも、それが利用できない場合も考えられる。そうなれば何をすることも行動範囲が制限され、生活の質が極端に悪くなる。そのために1~3年のスパンでのアンケート調査、学習会、視察、話し合いを経て、町へ要望、請願、陳情のいずれかを行いたい。

まだまだ紙面には載せきれない事柄がたくさんありますが、はてなサロンはずっと続きますので、今度はぜひ参加しませんか？ 一人でも多くのあなたの声を届けてください。



埼玉県No.1

他の追随を許さない
絶対王者が寄居町にある!?



ひとこと言わせて



ダントツ一番は、「風布みかん」だ。
なんだ、ミカンか、ではないのである。
生産、売上の2冠を独占して産出額3,000万円。
立派な特産品なのである。堂々たる寄居の資源なのである。にもかかわらず、その待遇は、愛媛ミカンや紀州ミカンのような主産業として支援、脚光はおろか、第一あの観光用かどうか、風布ミカン園のポスターなんか何年も同じデザインではないか。なんとかナスもいいが、ともかく、寄居ブランドを代表する物産なのである。

日本は今、温暖化による農業特産品地図が大きく変わろうとしている。ミカン産地伝統県はいずれもポストミカン戦略を打ち出している。

風布ミカンは耐えてきた。特産品としての自負はもちろんあった。が、特産づくりの主流から外れた、と思う。新規特産づくりはむづかしい。既存の資源を再活性化する。埼玉県をミカン生産地県に。

ちなみに、県内第2位は「うめ」。畜産は寄居の強みで、乳用牛第2位、豚第3位、鶏卵第5位。ネギは県内11位、小豆4位。こうした生産力と、支える環境をテコ入れしなくては、と痛感する（データ2019・11月現在町農林課）



大北ひさかつ

働く女性の裏には

保育園や学童の問題あり

息子が小学生になるころ学童の利用は考えていませんでした。上のお姉ちゃんは近所に3人の同級生がいて、1人で下校することはほぼありませんでした。通学班を確認すると新一年生は息子だけ。学校まで25分の道のりを帰りは1人で帰ってくるのが分かり、焦って学童の申込みをしました。この時は“少子化”“過疎化”を感じました。

放課後、子どもを預かってもらうだけと思っていた学童。フタを開けてみると、学校よりも楽しい！学童に行きたいから学校に行く！という毎日になりました。1年生の頃、お友達とのトラブルで「学校に行きたくない。学童だけ行く。」と言った息子。「学校行かないと学童は行けないんだよ」と伝えると「じゃあ学校行く」と答え、このとき息子にとって学童はとても大きな存在なんだと思いました。

学童では指導員さん、お友達と目一杯遊んでいます。指導員さんは子どもたちに混ざって、全力で遊んでくれるし、美味しいおやつも手作り。勉強も一緒にやってくれる。上級生や下級生とも一緒に遊ぶ。川遊び、秘密基地作り、虫取り、泥遊び。家では出来ない経験ばかり。本当にありがたいです。

今年度、保護者会の役員として今までと少し違った視点で学童に関わらせていただきました。そこで指導員さんの処遇が低く、そのため人手不足の状態が続いていることを知りました。また保育料が高いために、預けたくても預けられない家庭もあると聞きました。保育料はおやつ代なども含めて1万3000円ほど。兄弟割もなく、下の子が入るから上の子は辞めるとい



う家庭も私自身見てきました。熊谷市の学童はおやつ代込みで約6000円。兄弟は半額になるそうです。この金額の差は…？少子化と言われてはいますが、入所者は年々増えています。

「寄居町学童保育の会」HPには“子と親の安心を育む「第二の家庭」でありたい”とあり、子どもたちも甘えたり、喧嘩したり、時には優しく見守ってくれる場所です。息子も私もたくさんの学びと経験、大切な友達と出会えました。

保護者が安心して働けることができ、子どもたちが放課後安心して過ごせるよう、町には保護者や指導員の現状を知ってもらいたいと思います。 S.R

りと堪能できると思います。

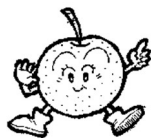
おまけに。寄居の夏の風物詩となった「荒川いかだ下り」。正喜橋をくぐり抜けて、ここ雀宮公園の左手はコース最大の難関となっているのです。この難所で転覆・座礁・分解（！）したイカダは数知れず。オバさん四人組で乗り組んだ、わが「ひょうたん丸」も過去に大転覆の憂き目に遭いました。「…死ぬかと思った！」（Oさん談）。

玉淀、雀宮、荒川の水面。^{みなま}「よどみにうかぶウタカタは、かつ消え、かつ結びて…」

川をながめてほんやり時間もきっと心の栄養になるはず。雀宮公園からの荒川の景色を、皆さんもぜひ。

田中洋子

私のお気に入り

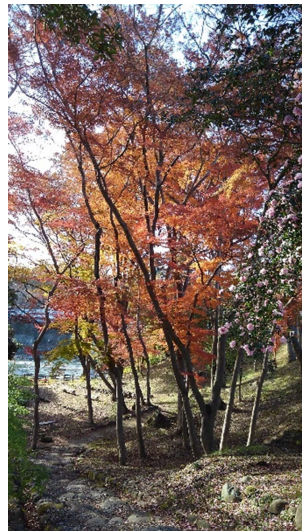
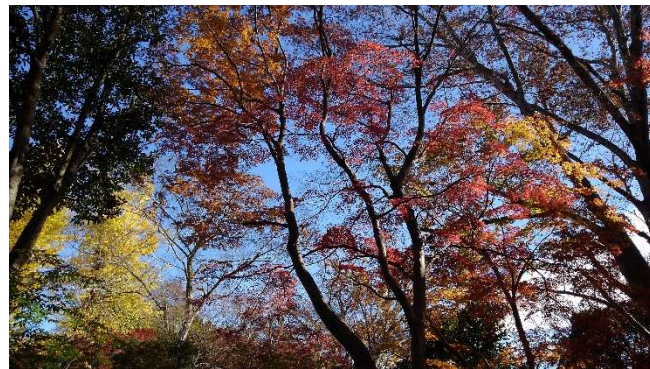


雀宮公園ぐるり

東上線荒川鉄橋のたもとから川沿いの道を上流へ、木々のあいまに見えかくれる川の流れを楽しみながらぶらり歩くと、つきあたりが雀宮公園。途中には水天宮や宮沢賢治の歌碑もあり、こどもの頃からのお気に入りの散歩道です。

その昔の雀宮は滑り台やブランコなど遊具も充実していて、夏になれば川原は水浴びの場として賑わい（溺れかかったことも何度か…）、こどもにとって格好の遊び場でした。公園東側の現在空き地となっている場所には旧図書館があり、夏休みの宿題に悩む頭に開け放した窓から心地よい川風が入ってきたものでした。「雀宮」が七代目松本幸四郎別邸跡地と知ったのはそれから随分後のこと。しばらくは閉じられていたようでしたが、現在「川の国埼玉はつらつプロジェクト」の一環として整備が進行中です。

先日久しぶりに立ち寄ってみると、起伏に富んだ地形にモミジの大木や銀杏、雑木林が茂り、秋の紅葉は知る人ぞ知る名所になっているらしい！一なんといいことでしょう！（匠の技のナレーションで）裏通りのようだった道は広々と明るく舗装され、夏頃には正喜橋の下まで川沿いの遊歩道も整備されるというではありませんか。ここから東上線鉄橋にかけては川の流れが速く、岩にあたり波立つ清流の眺めをゆった



身近な帰化植物図鑑 —ナガミヒナゲシ—

シリーズ2

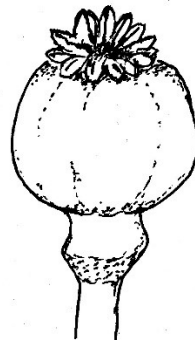
白井操子

地中海地方原産の一年生草本です。ヒナゲシより花はやや小ぶりで色も薄くオレンジ色ですが、花壇に咲いても十分きれいな花ではないでしょうか。ですがそのあまりの繁殖ぶりに敬遠されがちになったようです。1961年に東京で見つかり、2000年以降全国に爆発的に広がりました。特に都市部の道路わきや植え込み、コンクリートの隙間などに繁殖しています。土壌は選ばず日当たりの良い乾いたところを好みます。発育条件によっていろいろな大きさに育ちますが、どんなに小さな体、小さな花、小さな実でもその種は発芽能力があります。

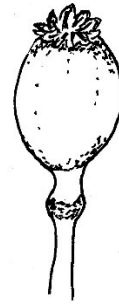
一年生草本というのは、一年で体は全部枯れてしまって種だけが残る草のことです。ナガミヒナゲシの種は、その後3種類の進路があります。①秋に発芽して地面にペタッとはりついた葉（ロゼット葉といいます）で冬を越す。春になるともう葉ができていますのでそうでない草と比べると断然有利に成長します。②春になってから発芽する。少し小ぶりの体になります。③翌々年とか場合によっては何年もたってから発芽する。対応の幅が広いですね。また、種が未熟の状態でも後熟といってちゃんと発芽する種になることができます。ですから種が熟す6月前に草刈り機で刈っても、かえて種をまき散らす結果になる可能性もあります。



もし繁殖してほしくない場合は、ロゼット葉のうちに根ごと抜くのがいいようです。私の経験によるとロゼット葉から成長したナガミヒナゲシはいくら蕾のうちに花茎を折りとっても、後から後から新しい花茎が伸びてきます。やはり根っこから抜かないと。そして折り取った花もしくは未熟な実は安全な場所に。



ケシ



ヒナゲシ
(雌)

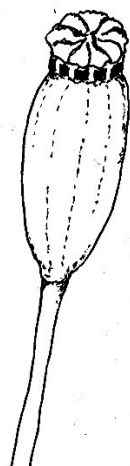


ナガミヒナゲシ
(長実)



ナガミヒナゲシのロゼット葉

ヒメムカシヨモギなど似たようなものがありますが、ナガミヒナゲシの葉は切れ込みが深く緑が濃いです。よく見ていると違いが分かります。



実が熟して乾いてくると、上の方にわずかの隙間ができます。実の中に入っている1000~2000個の種はこの隙間から出ます。ただし、強い風が吹いて長い茎が大きく揺れた場合だけ種は外に出ることができます。つまり、より遠くまで種が飛ぶ可能性があるときだけ種がこぼれるという訳です。

種を出来るだけ遠くに飛ばすナガミヒナゲシの仕組みは、この種類だけの特殊能力ではありません。どの植物も自分の種をより広くより多く残す仕組みを大なり小なり持っています。

小川町メガソーラー

環境影響調査計画書説明会

隣の小川町に現在メガソーラーの建設計画があがっている。国策として自然再生エネルギーの拡大を推進してきたが、ここへきてブレーキがかかっている。買取り価格の引き下げが一番の理由となる。そんな状況下、80haもの面積でこの時期になぜメガソーラーと思う。

残土処理事業から出発

先日この計画の環境アセスメントの説明会があり、小川町まで足を運んだ。そこではじめてこの計画の本質が見えてきた。地元小川町の人たちからの矢継ぎ早の質問、意見に驚かされた。この会場でなければわからないことだらけだった。もともとは30年以上も前、この山間部に広大なゴルフ場建設がすすめられ、森林は伐採され、造成がなされた。ところが、不正による開発企業の社長逮捕によりこのゴルフ場建設は頓挫した。そのまま放置されていた開発地を数年前、寄居町の事業者が取得。最初は、谷間の多いこの地に残土処理事業の計画が出された。どこからか訳ありの残土が搬入される可能性が大きいと地域住民の反対にあい、この計画は中断されたという。が、この広大な土地を簡単には放棄できない。次なる一手が、今回のメガソーラー(39,800kW)計画へととなった。

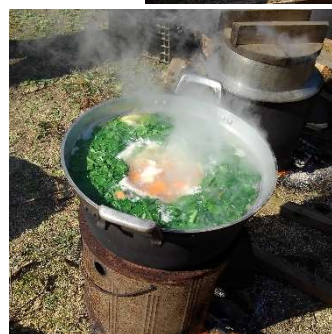
自然再生エネルギー、太陽光発電所は一見好印象だ。悪臭もない、化石燃料の削減、循環型社会への転換と謳い文句は素晴らしい。が、とんでもない落とし穴が見えてくる。元々が残土処理を計画していた土地である。当初の残土処理の搬入計画 150万 m^3 から今回は97万 m^3 と3分の2量を搬入する計画である。太陽光発電を隠れ蓑にした事業ではないか。事実、この事業者が自社の成功例として挙げている「深谷発電所」はわたしの目と鼻の先に建設されたが、平地林を伐採し、当初5mの盛土の上にパネルを設置する計画が変更されて8mになり、最終的には、3倍の15mもの高さとなった。外部からの残土搬入の利益が大きいことを事業者は認めている。そして、10tトラックによる搬入はトラックが連なり、子どもたちの登下校にも影響し、町道は破壊され、その騒音、土埃でも近隣の住

民は大きな被害を被った。今、全国的にも悪質な開発計画がなされている。山間地を切り開いて自然破壊をする太陽光発電など認められない。

大北秀子

家庭菜園講座

2014年に開校した菜園講座も7年目に突入です。畑仲間のお付き合いも密度が濃くなっています。昨年11月の収穫祭の様子。おいしい手づくり料理を満喫。これだけはやめられません。



ネット会員募集



毎日の暮らしの中で、感じていること、困っていることなど皆で話すことからスタートです。私発が原点です。安心して暮らせる地域を私たちの手で。ぜひ、お仲間になってください。

問合せ：大北（080-5933-7154）

※ショートメールでもOKです。